

東部の学校事務

第 16 号
2015. 3



子どもたちの夢をはぐくみ、

学校経営に主体的に参画する学校事務職員

埼玉県東部公立小中学校学校事務研究協議会

【目次】

会長あいさつ	・ ・ ・ ・	1	常任理事の一年	・ ・ ・ ・	12
全体的事業報告	・ ・ ・ ・	2	各部活動報告	・ ・ ・ ・	13
全体研修会並びに総会	・ ・ ・ ・	3	市町事務研活動報告	・ ・ ・ ・	16
初任者研修会	・ ・ ・ ・	5	久喜市 白岡市 宮代町 幸手市 蓮田市		
学校事務職員研修会	・ ・ ・ ・	7	杉戸町 八潮市 吉川市 松伏町 三郷市		
研究大会	・ ・ ・ ・	9	初任者の一年	・ ・ ・ ・	26
			編集後記	・ ・ ・ ・	29



【会報おこし】

会長 櫻井 恵美子

現在、教育を取り巻く様々な環境が変化している中ではありますが、今年度は、教育事務所への人事異動が行われたこと、また「事務職員も欠かせない戦力だ」と新聞で大きく取り上げられたこと、県教委の表彰の対象が事務職員にも広がったことなど、私たち学校事務職員にとりまして、様々な変化を感じた一年でありました。

特に新聞報道では、事務職員や外部人材を活用し、「チーム学校」として学校組織の総合力を高めようという構想であり、そのために事務職員を増やし、さらに資質の向上が必要なことであるとも報じられました。事務職員の果たすべき役割に大きな期待が寄せられており、その責任が対外的にも理解・期待されつつあるものと考えております。このように社会の要請が高まっている中において、平成26年度は、これまでとは視点を変えて、事務職員の新しい分野として、「防災」に関して研究を行い、将来像を考えてまいりました。

学校における「災害安全」の根拠や、平時における備え・災害時・発生後の対応、そして学校機能再開に至るまで、様々な場面で事務職員が果たすべき役割等について理論立てた研究を行いました

た。また会員の皆様に御協力いただき、防災に関する事務職員の実態調査も行いました。

事務職員は、学校の財務担当者として、施設を始め学校全体を見渡せる立場にあり、防災に関しては教員とは違った角度から対応できることが多くあることがわかってきました。また、学校は公教育を行う場であるだけでなく、児童・生徒を含んだ地域防災拠点でもあるということから、地域と共同しなければならぬ役割を再認識し、地域社会に対しても、事務職としてどのような方向から支援できるのが今後の課題であるように感じております。そして、将来に向けて防災における役割の確立を目指していきたいと考えております。さて、本会では、この研究活動と並行して、平成26年度も4つの全体的事業を中心に日々の活動を行ってまいりました。会員の皆様の御協力のおかげで無事全事業を終了することができましたことに、心より感謝申し上げます。

5月の全体研修会では、青山社中株式会社筆頭代表CEO朝比奈一郎先生をお招きし「リーダーシップ」や「変革」についてお話いただきました。特に若い方々には、いい刺激になった御講演でした。

10月の学校事務職員研修会では、兵庫県震災・学校支援チームEARTHの松本亨先生にお越し

いただき、震災の御経験とこれまでのEARTHの取組や研修・訓練で培われた知識に基づく実践的なお話で、大変参考になる御講演をいただきました。この研修会の後、勤務校において防災の実践に取り組まれた方も多かったのではないかと思われます。

12月の研究大会では、研究部が、東部管内で被害のあった竜巻の経験や参会の皆様との研究協議を交えた充実した内容での発表を行いました。熱心な研究活動であったことを伺い知ることのできる発表でありました。

また、知識共有部・広報部のパネル展示もありました。どちらも新たな発想と工夫を凝らした内容であり、日頃の熱心な活動を会員の皆様に紹介する貴重な機会となりました。そして、研修部・総務部が運営面をしつかり支え、全ての部の総力を結集し、活力あふれる実り多い研究大会となりました。

今後も、主体的・意欲的に活動し、互いに磨き合い、特に若い部員が活き活きと活躍できる研究協議会にしていきたいと考えております。

最後になりましたが、本会の活動に對しまして、東部教育事務所、各関係教育委員会から温かい御支援・御指導をいただきましたことに、深く感謝申し上げます。



【全体的事業報告】

東部公立小中学校事務研究協議会では、全体的事業として4つの大きな事業を行っております。各事業の詳しい内容は3ページ以降に記しますので、ここでは概要についてご紹介いたします。

◎ 全体研修会並びに総会

平成26年5月15日（木）

春日部市商工振興センター

全体研修会では2つの研修を行いました。

まず、「平成25年度学校組織マネジメント指導者養成研修」に参加した3名から、研修の報告がありました。「つなぐ」「分析」「特殊解」の3つのキーワードにしばった報告は、研究大会での発表に期待をもたせる内容でした。

次に、青山社中株式会社筆頭代表CEO 朝比奈一郎氏から、「これからの公務員に求められるもの」というテーマでの講演がありました。これからの公務員に求められるものとして「変革」と「リーダーシップ」を挙げられましたが、「リーダーとは始動者である」というお話が印象的でした。続く総会では、全ての議案が無事可決承認され、

平成26年度の東部事務研の活動がスタートしました。

◎ 初任者研修会

平成26年7月28日（月）

春日部地方庁舎 大会議室

経験3年未満の事務職員を対象にした初任者研修会では、丸田 京一総務・給与担当部長による講義、木村理事長による講話、経験3年目の2名による実践報告に引き続き、グループ別討議を行いました。付箋や模造紙を利用したグループ討議では、活発な意見交換が行われ、予定された時間では足りないほどでした。

◎ 学校事務職員研修会

平成26年10月9日（木）

春日部市・東部地域振興ふれあい拠点施設

学校事務職員研修会は、兵庫県教育委員会震災・学校支援チーム（EARTH）避難所運営班班長 兵庫県宝塚市立光明小学校 松本 亨 学 校主幹から、「防災対策及び災害時における学校事務職員の果たすべき役割」というテーマでご講演をいただきました。

実際に災害を体験された方からのお話は大変興味深く、参加者は自分の学校に置き換え、非常時に事務職員として何ができるかを改めて考えることができたようです。

◎ 研究大会

平成26年12月11日（木）

久喜市菖蒲文化会館

最後の大きな事業は研究大会です。東部教育事務所の行政説明、「学校組織マネジメント指導者養成研修」伝達研修、研究部研究発表という、盛りだくさんの内容でした。参加者にとつては、1日で多くの学びがあったことと思います。

発表の他に、知識共有部・広報部も工夫を凝らしたパネル展示を行い、運営面を支えた研修部・総務部も加え、東部事務研の総力を結集した研究大会となりました。

1年間の活動を振り返りましたが、活動する中で随所に新たな工夫が見られ、常に進化し続ける東部事務研を実感した1年でした。

最後になりますが、事業の実施にあたり、東部事務研の会員の皆様のご協力に感謝いたします。



【全体研修会並びに総会】

平成26年5月15日（木）

春日部市商工振興センターを会場に、埼玉県東部公立小中学校事務職員全体研修会並びに総会が開催されました。

開 会 式

開会式では、櫻井会長より、東部管内での共同実施の進捗状況と、今年度より新たに設けられた教育事務所への人事異動制度のご紹介と、講演会でお招きした朝比奈氏のご紹介などがされました。

全体研修会

① 研修報告

全体研修会では、平成26年2月24日から5日間の日程で行われた、独立行政法人教員研修センター主催、平成25年度学校組織マネジメント指導者養成研修の報告が、東部管内から参加した3名の事務職員より行われました。

報告の内容として、学校組織マネジメントについての基本的な説明と、その必要性を、「個業から協働」「SWOT分析」「PDCAサイクル」をキーワードに報告されました。



② 講演

研修報告に続き、青山社中株式会社 筆頭代表 CEO・中央大学客員教授 朝比奈一郎氏をお招きし「これからの公務員にもとめられるもの」を演題に、公務員としての変革の意識と、リーダーシップについて、とても熱い講演がされました。

1 導入…行政に「変革」を感じた原点

朝比奈氏は、ハーバード大学ケネディスクール（行政大学院）入学の日に、同時多発テロに遭遇し、大国アメリカの混乱を目の当たりにしたことで、これからの時代に、安定というものは存在しない。兎角、安定していると思われがちな公務員であっても、変革とリーダーシップを意識していないと、立ち行かない時代がくるだろうと、痛感されたそうです。

2 公務員として試みた「変革」

朝比奈氏は、通産省（現 経済産業省）に入省し、インフラの輸出などに携わりつつも、努力に見合う成果が得られていないと思い、強く変革を意識するようになったそうです。

そして、省庁の枠を超えて、同じ思いの仲間が集い、政策の作り方そのものを考える「新しい霞ヶ関を創る若手の会」を結成したそうです。



その若手の会で、仲間と熱い議論を交わすうちに、若手の会のボトムアップが図られ、総理へ直訴することによるトップダウンもあったことから、朝比奈氏自身が、公務員制度改革の意見交換会に招かれるまでもなったそうです。

3 なぜ、「やり過ぎる力」が必要なのか？

朝比奈氏の著書「やり過ぎる力」の紹介から、今現在、日本の経済は低迷し続けていますが、生産年齢人口あたりのGDP成長率は、現在でも世界のトップクラスにあるのです。

しかし、少子高齢化が顕著であり、先進国と比較して、次代の担い手である若年層の海外に対する意識や、留学などの興味が低く、天然資源にも恵まれていない日本が、これからも世界と対等に渡り合うには、クリエイティブクラス（リーダーシップ人材）の育成が必要になると思います。

40年周期説で考えれば、今は前例なき時代・混乱の時代にあるのだと思います。そのような時代だからこそ、必要なのは前例や掟を乗り越える力Ⅱ「やり過ぎる力」なのです。

ダーウインの進化論にあるように、強い者・賢い者が生き残るのではなく、変化に適応した者が生き残るのです。

4 リーダーシップの本質とは何か、リーダーとは何者か

おそらく皆さんは、リーダーとは「ついに行きたいと思える人」と、思われるのでしょうか、それはリーダーのことではなく、マネジメント力のある人のことであり、リーダーとは、当たり前でないこと・無理なことを当たり前にする人のことなのです。

極端な例えでは、タクシー待ちで同じ方向へ行く同乗者を募れる人（とても勇気がある人）が、リーダーの素質を持っている人なのだと思います。

5 リーダーシップについての考察

リーダーとマネージャーの違い。リーダーとは、創る人・周りを育てる人・問題発見をする（火をつける）人・変革への対処をする人のことです。

一方、マネージャーとは、分析する人・周りを監督する人・問題解決をする（水をかける）人・複雑性への対処をする人のことであり、リーダーとマネージャーは相対する立場にあるのです。

また、リーダーとは「指導者」ではなく、変革を自分から始める『始動者』でなくてはなりません。まずは自分を変え、人々を変え、そして社会を変えるのです。それには、失うものもあり、不毛な忙しさも伴います。しかし、始動者はそれら

を恐れずに、チャレンジしなくてはなりません。理性和感性・科学と芸術など相反するものを総合的に学ぶことにより、大局観を養い確固たる決断力を身に付ける必要があります。

6 過去のリーダーから学ぶ

日本が失った最大の教育は「人物教育」だと思います。人物教育とは歴史上の人物に感情移入して、その人が人生をかけた『ポジション』について考えることです。

例えば、坂本龍馬は倒幕のキーマンとなりながら、同じくキーマンとなった大政奉還では徳川をかばう立場になり、何を感じていたのか？

ステイブ・ジョブ氏は、後に「人生最大の成功」と称した大学中退時に、何を感じていたのか？ライバルのビル・ゲイツ氏に何を感じていたのか？自ら創業したアップルに追放された時に、何を感じたのか？

また、ステイブ・ジョブ氏は、ソニー創業者の盛田昭夫氏をとて尊敬し、おそらく人生のポジション取りの参考にしてははずです。皆様も、過去の偉人を参考に、自分のポジション取りの参考にし、「やり過ぎる力」を持って仕事や人生を切り開いていただきたいと思います。



「初任者研修会」

平成26年7月28日(月)

春日部地方庁舎大会議室を会場に採用3年次までの本採用者と経験1年未満の臨時的任用者を対象に、平成26年度埼玉県東部公立小中学校初任者研修会が開催されました。

開 会 行 事

櫻井会長からは、「信頼される事務職員」が、初任者にとっても、ベテランにとっても共通の目標になると思います。グループ別討議の際にも念頭において欲しいというあいさつがありました。

次に東部教育事務所 高田副所長からは学校事務の仕事は、財務から人事まで多岐にわたるものです。大変な部分もありますが、この仕事に携わる人材がいなくなると学校は動かなくなってしまう。ベテラン、若手に関わらず、学校運営に必要な人材であります。本日の研修会では、個人の資質向上だけでなく、フェイス・トゥ・フェイスで交流を深めてください。と御挨拶をいただきました。

事務研活動について

木村理事長より、東部事務研の会則の中に「資質向上」と「教育活動への寄与」が目的であるとあります。そのために、東部事務研では学校事務に関する研究及び調査、研究大会・研修会の開催、会報の発行等を行っています。常任理事会と5つの部を中心に、初任者研修や研究大会を含む、4つの大きな事業を行い、日々の活動として、J-BOXの運営や広報の発行等も行っていきます。また、事務研の会費は個人からではなく、各市町が公費で納めているものであり、負担金で運営しています。これは各市町の学校事務職員への期待の表れでもありますので、心して積極的に参加してください、とお話がありました。

講 義

東部教育事務所 丸田総務・給与担当部長より、昨今は事務作業が効率的になっていくと同時に、学校事務職員を取り巻く環境が変わってきているように感じます。県費事務システムが導入され、共同実施を行う市町も増えてきています。履歴書の電子化も今年度から本格的に始まります。こうした変化の大きな時期に採用されたみなさんは、

次のような心構えで仕事に向かって欲しい、ということで、仕事を進めるにあたって意識したい3つのポイントについてお話いただきました。

● チームとグループとは違います。チームは仲間が思いを1つにして、共通のゴールに向かって進んでいける組織を言います。学校でも自分がチームの一員であると自覚をもって仕事にあたってください。

● 仕事をするにあたり必要な3つの目について。「虫の目」視野は狭いが地道にコツコツ仕事をする。こと。「鳥の目」広い視野でいろいろな角度から物事をみて仕事すること。「魚の目」時代の流れを読んで仕事すること。これらを養うには常にアンテナを高く張り、日々の仕事や研修会などに積極的に参加することが必要です。

● 世の中を変えるのは「若者」「よそ者」「バカ者」です。若い人、よそから来た人、経験が浅い人は新しい風を吹き込みます。みなさんも不慣れであること、よく知らないというデメリットを、何事にも新鮮な気持ちで取り組めるというメリットに変えて、何事にも気付きの視点を持って周囲を見渡してください。教員には思いつかない発想が、事務職員から生まれるかもしれません。



実践報告

羽生市立新郷第一小学校 野中事務主事からは、先生方をサポートすることが子供たちの教育への貢献の近道ではないかと思い臨んだ1年目が、目の前の仕事が忙しく、先生方に助けてもらったという反省について。2年目になり、年間スケジュールを立てることで見通しが立ち、周囲に気を配り、先生方の負担も減らすことができたという報告がありました。また、先生方と会話をする、自ら気付き、行動する、先生方の表情から求めていることを察すること、を心掛けて仕事にあたっています。今後も全力を注いでいきたいと意気込みを話していました。

八潮市立大原中学校 森事務主事からは1年目は年間の流れ、事務処理の仕方、依頼の対応の3つを徹底したこと、2年目は流れが大体掴めたことで少し余裕を持つて取り組めたという報告がありました。大規模校ということで事例も多かったため、問い合わせや協議をした内容を「協議記録」という形で作成しファイルを残しているそうです。事務局があるため集中して取り組みますが、先生方とのコミュニケーションをはかることを心掛けているそうです。

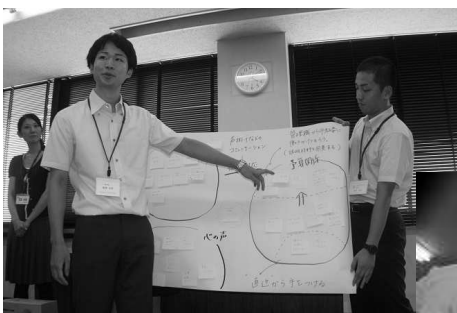
グループ別討議

7班で2つの部屋に別れて行いました。例年通り、ファシリテーショングラフィックを用いて3年目の方が司会、研修部員が記録をしました。グループ別討議後は、3つの班が選出されどのようなことを話し合ったか発表しました。

主に、財務関係のことが取り上げられたようで、予算が少ないことなどの不満に対し、どのように節約するか、先生方に意識をしてもらい協力を得るのかという解決法を考えていました。

また、どの班も先生方とのコミュニケーションを図ることが最も重要という結論が出ていたようです。

《初任者研修会・学校事務職員研修会・研究大会の記録・アンケート結果については、J-BOXの「各部からの連絡」の中の「研修部」に掲載されておりますので、併せてご覧ください。》





【学校事務職員研修会】

平成26年10月9日(木)

春日部市東部地域振興ふれあい拠点施設ふれあいキューブを会場に、平成26年度埼玉県東部公立小中学校事務職員研修会が開催されました。

開 会 行 事

櫻井会長からは、文部科学省による、事務職員増員計画が報じられました。私たち事務職員の役割に期待がされている非常にうれしいニュースです。同時に、共同実施についても触れておりますので今後さらに重要性が増すものだと思われまますとのあいさつがありました。

東部教育事務所 中村所長からは、中教審が提言する「チーム学校」の活動や、地域とともにある学校づくりにおいて、事務職員の新しい役割が検討されています。東部地区が早くから取り組み実績をあげている共同実施の活動に、今後も期待しています。また、県費事務システムの導入で効率化が図られましたが、教育事務所と学校との距離感が広がりつつあるように感じます。「チーム東

部」一丸となって、学校の課題を解決していかれたらと思います、と御挨拶をいただきました。

講 演

『防災対策及び災害時における学校事務職員の果たすべき役割』というテーマで、講師に兵庫県教育委員会震災・学校支援チーム(EARTH)避難所運営班班長 兵庫県宝塚市立光明小学校学校主幹 松本 亨(とおる)氏を招聘し、震災の教訓とEARTHでの豊富な活動経験から、予想される災害への心構えや震災時の学校の役割についてご講演いただきました。

EARTHとは、Emergency And Rescue Team by school staff in Hyogo の略です。阪神淡路大震災を受けて平成12年に発足しました。全153名の内、学校事務職員も17名参加しています。

学校は、災害が発生したとき、児童生徒の安全を確保するとともに、地域住民の避難場所としての役割を果たすことになります。阪神淡路大震災においても、学校は多くの住民の避難場所になりました。ですから、災害時の避難場所として、学

校は安全な環境でなければなりません。しかし学校施設については、建物を形成する主要構造部に関する耐震化の推進が大きな課題となっていて、そのための推進方策が講じられています。その一方で、壁の剥離や天井、照明器具の落下等非構造部材の損傷による被害が起きており、それらの安全性の確保が重要です。そのためには、日々の学校施設の防災安全点検は大切です。阪神淡路大震災、東日本大震災でも被害の大きかった、外壁、建具、ガラス、内装材、天井材、屋根材、備品といった非構造部材等を定期的に点検することで、注意箇所や改善箇所の特定などの被害防止や、今後の修繕改修の計画に役立てることが出来ます。また、学校全体を見渡すことのできる、私たち学校事務職員には、定期的に行われる安全点検の結果を通して、財務担当者として学校と教育委員会を「つなぐ」役割が求められます。修理物品調達が必要な箇所、市町村教育委員会へ連絡して予算を確保しなければできない箇所までの対応を的確に判断して、限られた配当予算を効果的・効率的に取り扱うことが可能です。

災害が発生すると、学校は避難所として避難

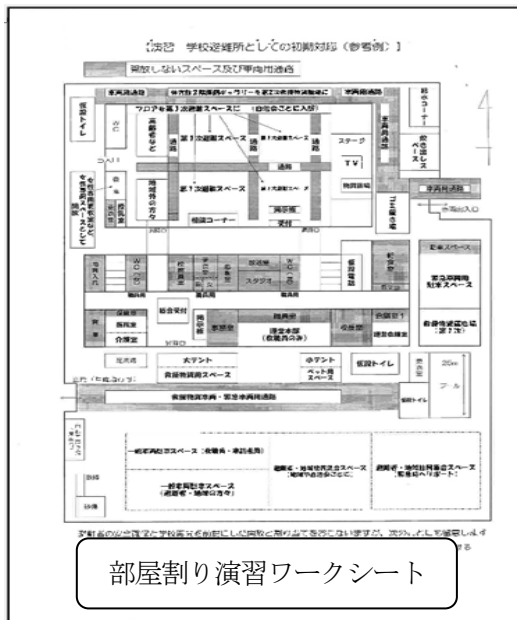


者を受け入れる施設になります。児童や地域の方のみでなく、通勤者などの帰宅困難者も受け入れるので、とても多くの人々が学校に避難してきます。その際、どのように学校を開放すれば、安全な避難所として機能できるのかを考え、早急に避難所を開設しなければなりません。また、その先の教育活動再開も見据えて運営を行わなければなりません。避難所開設時、教員は主に児童生徒の対応に終始しますが、事務職員には外からの避難者への対応や、避難所運営などの役割が発生します。具体的には、避難者に開放しない施設、場所の明示と避難所運営に必要な施設、場所の割り当てを行います。施設を開放する場所を、それぞれの機能を踏まえて判断していくのです。

部屋割りをする際には、避難者の安全確保と学校再開を前提に行いますが、「女性専用スペースを確保する」「緊急車両・物資輸送などの車両用動線を確保する」「教職員の更衣室やトイレは避難所とは別に確保する」「教室を開放する場合は代替教室を確保する」ことに留意します。教育活動の再開にあたっては、児童生徒や教職員の安全、校舎施設、通学路などの安全

主として避難者収容のために必要なスペース	体育館 多目的教室 等
負傷者の救護や看護に必要なスペース	保健室 和室 等
避難所の管理運営や学校再開に向けて必要なスペース（開放しない）	校長室 職員室 事務室 等

学校施設の使用例



部屋割り演習ワークシート

を確認し、保護者、PTA、教育委員会や関係機関等と十分に連絡調整をはかった上で行うことが大切です。

近い将来に想定される災害に対して、最悪の場合を考えて、そこから逆のアプローチをしていくと効果的な対策が見つかります。現行の災害マニュアルが、実際に人の動きを踏まえたものになっているかの検証と見直しを行い、多角的な視点から見たマニュアルであることが重要です。また、防災訓練で失敗した部分を見つけ、改善することが本当の目的です。私たち学校事務職員は、年間総予算のうち、どの程度を学校安全に向けられているかを検証することや、学校安全に関する情報を収集して、教職員に対して啓発していくことが大切です。しかし今日の学校のおかれた状況下では、全ての防災教育を学校で行うには態勢的にも時間的にも限界があります。そのため学校は防災施設を備えた施設管理、行政は防災に関する啓発活動、地域は自主防災活動と、それぞれが役割を果たしながら、防災教育をすすめていくことが重要です。そして今後、学校事務職員は、それら学校、行政、地域のネットワークを繋ぎ広げる役割を担ってください。





「研究大会」

《大会テーマ》

子どもたちの夢をはぐくみ、学校経営に主体的に参画する事務職員をめざして

平成26年12月11日(木)

久喜市菖蒲文化会館(アミューズ)を会場に、平成26年度埼玉県東部公立小中学校事務研究大会が開催されました。

開 会 行 事

会長あいさつでは、学校事務職員が欠かせない戦力であると新聞記事になり期待を寄せられていること、学校事務職員が県教委の表彰に4名、受賞したことが紹介されました。その後、中村東部教育事務所長、会場である久喜市の柿沼教育長、関校長会長、埼玉研 倉林会長より研究大会開催についてご祝辞をいただきました。

来賓の方々からは、学校事務職員に対する期待の言葉と、管理職や学校間の連携をして欲しいと御挨拶をいただきました。

教育事務所行政説明

東部教育事務所 丸田総務・給与担当部長が、給与勧告制度の基本的考え方及び勧告の手順、職員の給与はどのようにして決めるのかというテーマで、12月に施行された人事委員会の勧告について説明をしてくださいました。

職員の給与は社会一般の情勢に適應するように定められており、人事委員会は民間給与の実地調査と県職員の個人別給与調査に基づいて給与を比較し、「職員の給与等に関する報告及び勧告」を行っています。

平成26年の人事委員会勧告のポイントとして、以下の点が挙げられていました。

- ①若年層に重点を置いて給料表を引上げ
- ②地域手当を0.25%引上げ
- ③期末・勤勉手当の0.15月分の引上げ
- ④27年度からの給与制度の総合的な見直し

なお、差額支給は7年ぶりとのことと、それに伴う事務処理は特にないとの説明がありました。

次に手当関係の注意点として、平成25年度に埼玉県内で発生した過年度戻入について、具体的な事例を挙げて解説をしていただき、注意して事後確認を行うようにとの話がありました。

「学校組織マネジメント研修」伝達研修

伝達研修では、学校組織マネジメントについての説明と、各学校や各地域での実践例に関する発表が行われました。

学校組織マネジメントとは「学校内外の能力や資源を開発・活用し、学校に関与する人たちのニーズに適應させながら、学校教育目標を達成していく課程(活動)」のことを指します。学校組織マネジメントは、一番大切なポイントである、ミッション探索(関係者の学校への期待・自校の役割、使命の再確認)↓きちんと把握をするために重要な、内部・外部の環境分析(SWOT分析)↓実効策の検討(解決策の検討・有効性や相互のつながりの整理)↓学校経営ビジョンの作成(重点事項・具体的な取組内容の検討)という流れで行われること等が解説されました。

続けて発表者3名の実践について、紹介が行われました。

八潮市立大瀬小学校 勝浦 準事務主査からは、HPの更新がされないこと、未納処理に多くの時間や労力が必要となっていることを課題に挙げ、それぞれの外部要因を機会と脅威、内部要因を強みと弱みに分けて細かく分析(SWOT分析)し



たことが説明されました。

蓮田市立蓮田南小学校 星野 圭司事務主査からは、蓮田市学校事務共同実施協議会での経営ビジョンづくりについて、ミッシェンの探索とSWOT分析を行ったこと、研修後に変化した仕事への取り組み方についての説明がされました。

三郷市立北中学校 若林 麻里子事務主査からは、公費・私費の細分化について、会計を若手教員が受け持つことが多く、公費と私費の区別が会計担当者に分かりづかったこと、月々の集金額が多いことを課題に挙げ、公費と私費の具体的な品目を例示したこと、その結果、徴収金の額を減らすことができたこと等が紹介されました。

3名の紹介の後のまとめでは「学校組織マネジメント研修」で受けた研修よりも、この後、いかに自己研修ができるかが大切とのことでした。



知識共有部発表

午前と午後にもたがって発表を行いました。午前の部では、「知識提供」というと難しく思ってしまうかもしれませんが、簡単アンケートに答えることや、総務・給与担当訪問の結果報告なども知識提供になります。J・BOXは会員の皆様の協力により成り立ち、使っていただくほどに、知識は増えていきますので、これからもご活用をよろしく願います、と発表がありました。

また、J・BOXをより身近に使っていただくための取組として、スマートフォンやタブレットパソコンからも、アクセスができるようになったと紹介がありました。

午後の部では、今年度の重点活動である、間口を広げる取組とデータベースの充実化について説明がありました。間口を広げる取組として、QRコードによる、携帯端末からの利用を考えているとのことでした。データベースの充実化については事務便りの掲載数の増加を挙げていました。また、テーマ別知識収集についての結果の発表と、パスワードの変更について連絡がありました。パネル発表では、とぶ★たまちゃんのレア画像が当日限定で配信されました。

広報部パネル発表

広報とうぶ第44号で紹介した「スーパークールビズ」について、「この服装は学校であり？なし？」というテーマで、それぞれラフな格好をした写真を展示し、それを参加者の方々にシールで判定していただきました。結果については、J・BOXの「とぶ★たまちゃん日記」で発表しています。また、広報とうぶ第45号で紹介した「特色あるマラソン」について、広報紙では紹介しきれなかったマラソン大会と、東部地区のマラソン大会について展示しました。更に、初任者研修会で実際にグループ別討議で使用した模造紙を展示しました。

研究部研究発表

「学校事務職員の将来像を考える」というテーマで研究を続け、3年次となる今年度は「防災・今役割を超えて」をサブテーマとして、防災についての研究発表が行われました。

初めに、第1節では、「学校安全における災害安全」について、防災教育・防災管理・組織活動という3つの領域から構成されていること、そのうちの防災管理・組織活動について事務職員として関わっていけないのではいかとの話がありました。



次に第2節では、「防災における事務職員の実態」という内容で、9月に東部事務研究会を対象に行った防災に関するアンケートの考察を行いました。東日本大震災以降、集中豪雨による土砂災害、竜巻、火山の噴火等大きな自然災害がいくつも発生しています。防災は私たち事務職員にとつて関心の高い分野だと思います。アンケートからは多くの事務職員が、施設の安全点検や修繕対応、防災設備の把握に努めていることがわかりました。しかし、防災マニュアル作成及び事務職員間での情報の共有や研修の実施については行っている割合が低く、事務職員の防災に対する強い意欲を考慮すると、今後職務の役割を超えて取り組む必要があるのではないかと話がありました。

第3節の「災害発生前における事務職員の果たすべき役割」では、防災マニュアルの作成・改訂への関わりについての提案がありました。災害発生時には迅速かつ的確な対応が求められます。防災マニュアルを作成するときには、「事前に備える」「命を守る」「立て直す」ことが重要なキーワードになることやPDCAサイクルの手法を用い、各学校の実態に即した実践的な防災マニュアルとなるように継続的に取り組むことの重要性につ

て話がありました。また防災の取組は学校だけでなく組織として取り組む必要があるため、学校・家庭・地域・行政との連携を深めるために共同実施が利用できるとの提案がありました。

第4節の「災害時における事務職員の在るべき姿と地域を考える」では、平成25年9月2日に起きた竜巻被害時の状況と対応について越谷市立北陽中学校中道事務主幹から話がありました。実際の話をお聞きし、正しい情報の収集と整理、職員との情報共有等、情報の重要性を感じました。実際に災害が発生した時に事務職員が「情報伝達の要」となるためには、事前に災害時に必要とされる情報を整理しておくこと、教職員をはじめ児童生徒、保護者、地域の方々から厚い信頼を得ることが大切です。良好な人間関係を築き個人としての信頼を得るだけにとどまらず、職として、組織としてより強固な信頼関係を築くためにも共同実施が有効な手段であるとの話がありました。

第5節の「学校機能の早期再開と事務職員」では、「もしも学校が避難所になったら」というシミュレーションを行いました。兵庫県教育委員会震災・学校支援チーム(EARTH)の取組も紹介し、避難所運営と並行し早期に学校機能を再開す

るため、事務職員として何ができるのかを考えることができました。

研究部の研究発表後、10月に行われた学校事務職員研修会でも講演いただいた兵庫県教育委員会震災・学校支援チーム(EARTH) 避難所運営班班長 兵庫県宝塚市立光明小学校 学校主幹 松本 亨氏を助言者に研究協議が行われました。松本氏からは、今後、埼玉県でも想定を超えた自然災害は起こります。防災意識を高めるのはいいのですが、大切なのはこの研修会の後も、継続して防災に関するアンケートを取るなど、常に意識することが大切とお話がありました。

また、災害時は行政が守ってくれるだろうという、責任を他者に求める意識が多いが、この意識を改め主体的に関わっていかなければなりません。これからの学校事務職員は、学校防災の観点を持つことが必要であり、「備える」ためにできること、共同実施による学校間連携や、強みである連携を通じて何ができるのか、地域コミュニティにどのような貢献ができるのかを考えていかなければなりません。とのまとめの言葉をいただきました。



【常任理事の一年】

第1回 常任理事会

平成26年6月13日（金）

会場 杉戸町立西公民館

内容

- 全体研修会並びに総会の反省と課題
- ・事前準備、全体研修会について、総会について、参加者アンケート・理事評価より

○事業計画細案について

- ・全体的事業について

ア 初任者研修会について

イ 学校事務職員研修会について

ウ 研究大会について

- ・各部事業計画と課題

○予算執行計画

○事務要覧の発行について

第2回 常任理事会

平成26年8月28日（木）

会場 杉戸町立西公民館

内容

○学校事務職員研修会について

- ・日程、内容、庶務、その他
- 初任者研修会の反省と課題
- ・担当者（研修部）より、参加者アンケートより、出席役員より、課題とその解決策

○研究大会について

- ・大会テーマ、大会概要、その他

○各部活動状況報告

第3回 常任理事会

平成26年11月11日（火）

会場 幸手市民文化体育館

内容

○研究大会について

- ・大会概要・通知等、各部の進捗状況、合同部会（11月27日）の持ち方

○評議員会について

○学校事務職員研修会の反省と課題

- ・担当者（研修部）より、参加者アンケートより、出席役員より、課題とその解決策

○各部活動状況報告

第4回 常任理事会

平成27年1月14日（水）

会場 幸手市民文化体育館

内容

○研究大会の反省

○各事業等の検証

○電子化・データベース化の現状

○予算執行状況

○各部活動状況報告

○第2回理事会、評議員会について

第5回 常任理事会

平成27年2月26日（木）

会場 杉戸町立西公民館

内容

○平成26年度事業まとめと課題検証、予算執行現状報告

○平成27年度事業計画案、予算案の検討

第6回 常任理事会

平成27年4月16日（木）

会場 杉戸町立西公民館

内容

○平成27年度全体研修会並びに総会について

各常任理事会の議事録はJ-BOXに掲載済みです。



●各部活動報告

【総務部活動報告】

総務部の活動報告をさせていただきます。総務部長2年目の熊倉です。総務部では、東部事務研の予算執行や、事業での来賓接待など多岐にわたる活動して参りました。予算では、埼事研からの助成金が1校あたり250円から300円に増額されました。会費、繰越金、雑収入に加え、その助成金を総歳入として予算を執行しました。決算書につきましては、来年度の総会時に報告いたします。

また、昨年度も報告のなかで書かせていただきましたが、総務部は、各部の中で一番人数が少ない部です。部員はみな違う市で日々仕事をしています。それが理由なのかはわかりませんが、部会ではいつも様々な意見がでて活発に会議が行われます。

昨年度の活動に加え、今年度は学校事務職員研修会の受付を総務部が担当しました。これは部員さんからの提案で実現しました。また、受付の仕

方も工夫して、新たなやり方に「挑戦」しました。私は昨年度同様の活動しか考えていませんでしたので、とても良いことだと思いました。新しいことに「挑戦」ということは、可能性を広げるということでもとても有意義なことです。これは私個人として、仕事をする上でも必要な事なんだろうなと感じている今日この頃です。昨年度同様のことはたくさんあると思います。しかし、新たにできることを見つけ「挑戦」することもとても大切だと思います。

そのような新たな「挑戦」を来年度も総務部として考えていけたら、東部事務研はもともととよい場所になると思います。

最後になりますが、来年度も東部事務研を陰で支え、ときには表に出て、総務部をもっともっとアピールしていきたいと考えています。1年間ありがとうございました。



【研究部活動報告】

研究部では、「学校事務職員の将来像を考える」を研究主題に、昨年度までは共同実施について、そして、今年度からは『防災 今 役割を超えて』をサブテーマに据え、部員、協力員全員で、事務職員の可能性や将来像を模索してきました。そして、その成果を研究集録や研究大会における発表、協議の中で皆様にお伝えすることができたと感じております。部長である私を初め、経験年数の少ない部員も多いため、未熟な点多々あったかと思いますが、若手のエネルギーや事務職員の将来について悩み、考えた姿が、少しでも皆様に届いているとすれば幸いです。

研究大会を終えて、まず強く感じたことは、本当に多くの人たちのお力添えがあつて、発表等が行えるのだなということです。役員の方の大会開催に向けての準備や当日の臨機応変な対応があつて初めて、研究部は舞台に立つことができるのだと思います。そして、なによりも多数の会員の皆様のご参加、ご協力があつての研究大会なのだと感じました。特に研究協議においては、発言等をしていただき、その場において、みなさんと一緒



に防災や将来像について改めて考えることができました。ご協力に感謝申し上げます。

1年間を通しての活動を改めて振り返ってみますと、研究テーマの決定に始まり、アンケート調査の実施、その結果を踏まえての研究集録の執筆、助言者の先生とのやりとり、そして研究大会と多くの経験をさせていただいたなど感じます。特に研究大会助言者、EARTH隊員でいらつしやる松本享先生と、部会の中でお話させていただく機会を得られたことは、個人的にも忘れられない経験となりました。松本先生はNHKの番組に出演可能なのではないかと思うぐらい「プロフェッショナル」な事務職員、という印象で、「役割を超えて」ご活躍する、私の理想像とぴったり重なるような方でした。こういった出会いのチャンスはただけるのも研究部の魅力であると感じています。今年度、部長が変わり、部内に危機感があつたためか、研究部部員、協力員が本当によく団結して、「チーム研究部」として最後まで活動してくれました。

最後に、本研究のために多くの会員の皆様にアンケートにご協力いただいたことを厚く御礼申し上げます。活動報告を終わりにします。

【研修部活動報告】

研修部では、各市町より集まった21名の部員で、「初任者研修会」、「学校事務職員研修会」、「研究大会」の運営を行ってきました。近年の研修部は、5年目くらいまでの若手が多く集まります。そして、若いにも関わらず、しっかりとした考えをもっており、色々な意見を出してくれます。また、若手以外の部員が上手に部長、副部長をサポートしてくださることにより、部が運営されています。

7月に行われた初任者研修会は、採用3年未満の本採用者と経験1年未満の臨時的任用者を対象に行いました。今年も、「仕事の課題」について2時間にわたるグループ別討論を行いました。どの班も活発に意見が出ている様子で、若手事務職員の仕事に対する真摯な姿勢がうかがえ、とても感心しました。初任者研修会のアンケートの回答は、年々、好意的な意見が多くなっています。このことは、今までのアンケート結果や、若手部員たちが実際に研修を受け、部会で意見を出していただけることにより、少しずつ改善することができた成果だと思っています。

学校事務職員研修会では、「防災対策及び災害時

における学校事務職員の果たすべき役割」を演題とした、兵庫県教育委員会、震災・学校支援チームEARTHの避難所運営班長でいらつしやる、松本享先生の講演に170名を超える参加者が集まりました。数年前は、参加者が100名をきることでもあったことを考えると、私たち事務職員が防災に関して、とても高い関心をもっていることがうかがえます。また、昨年、一昨年は、アンケートの回収率が6割も満たない状況でしたが、今年は、8割近くまであがりました。参加者の皆様には、とても感謝しております。

研究大会は、一日開催ということもあり、運営する立場からすると、なかなか時間どおりに進まずに、焦りながら設営をすることが多いのですが、今年は、最初から最後まで日程どおりに進み、今までになくゆとりをもってステージ上の設営ができました。発表された皆さん、ありがとうございました。

最後に、各事業に於いてご協力いただいた皆様方に感謝をし、研修部の活動報告とさせていただきます。



【知識共有部活動報告】

今年度、知識共有部では①間口を広げる取組、②データベースの充実化の2本の柱で活動を進めてまいりました。まず、間口を広げる取組についてご紹介していきます。

J・BOXの利用者を増やすということは、より多くの書き込みや知識提供、活発な意見交換が望めるとともに、今まで保管されている知識が多くの目に触れることによって、より確かで最新の制度に合った知識に近づけることができると考えています。そこで、J・BOXを利用しやすい環境を目指し、間口を広げる取組を進めてきました。具体的には、現在、世間に普及し続けているスマートフォンに着目し、スマホからアクセスする方法を考えました。そして、より簡単にアクセスするために、QRコードを使ったアクセス方法を提案いたしました。更に、スマホの活用によりパソコンの前にいなくともJ・BOXが利用できることになり、事務研や共同実施等の出張先でも、J・BOXを見ることができ、必要な知識を必要ときに確認することができるようになりました。つまり、J・BOXを持ち歩くことができるよう

になるのです。研究大会ではパネル展示にて、実際にQRコードによるアクセスをご来場の皆様に体験していただきました。

2つ目の取組であるデータベースの充実化では、各市町で作成している事務だよりのご提供をお願いいたしました。この呼びかけに対し、事務だより10月号では7市町からご提供をいただきました。大変ありがとうございました。尚、この取組につきましては、継続的なご協力により、大きな効果を発揮します。どうぞ宜しくお願いいたします。

このほかにも、総務・給与担当訪問情報では約80校の情報提供があり、「服務」をテーマに8月に実施したテーマ別知識収集では、65件の回答をいただきました。これらは、新たな知識として、J・BOXに蓄えられています。どうぞ日々の職務にお役立ていただければ幸いです。

最後になりましたが、J・BOXへの一つ一つの書き込み、アクセス数、そして簡単アンケートや総務・給与担当訪問情報、テーマ別知識収集などを通じた、様々な形での知識提供が部員の励みとなっております。J・BOXに御協力いただきました皆様、大変ありがとうございました。

【広報部活動報告】

5年と長く部長を務めた本橋さんから、今年度は部長が代わりました。不安もありましたが、副部長をはじめ、部員さんの協力もあり無事に「広報とぶ」、「東部の学校事務」を発行できました。また、新規事業として、広報部員のとぶ★たまちゃんやんがJ・BOXでも「とぶ★たまちゃん日記」を始めました。

研究大会では、部員さんからの発案で、「特色あるマラソン」と「スーパークールビズ」についてパネル発表をしました。部会でも、どのように発表するかという話題でとても盛り上がりました。パネル作成の際も、自発的に協力の声があり、クオリティーの高いものが出来ました。そのおかげで、「クールビズ」では、たくさんの方がシールで投票をしてくださいました。ありがとうございました。結果はJ・BOXの「とぶ★たまちゃん日記」に載っておりますので、ぜひそちらもご覧ください。

今後も、皆様に親しみやすく、興味深い話題を提供できる広報を目指していきますので、何卒よろしく願います。



市町事務研活動報告



【行田市事務研活動報告】

◎ 小学校数	16校
◎ 中学校数	8校
計	24校
◎ 会員数	25人

行田市学校事務部会では、本年度、「行田市の財務会計に関する研修」を研究主題とし、7月29日に開催された行田市財政課・会計課主催の支出伝票等事務説明会に参加しました。

平成25年度、会計課より支出伝票等の事務処理について以前との変更点が多々あり、その都度指示を受けていたことの確認と根拠を勉強したい、また、財務会計に係わる中で、過去に研修を受ける機会がなかったため、ぜひ研修を受け知識を深めたいという目的で行いました。負担行為・予算流用・配当替え等について、支出伝票・支払い事務等について説明がありました。

また、夏季休業中における行田市立教育研修センター共催の学校事務実技研修会では東部教育事務所 総務・給与担当主任 稲葉幸久氏を講師にお迎えし、「給与事務処理の留意点について（学校訪問を通して）」ご講話いただきました。学校訪問を行って誤りの多かった事例について詳細にお話をいただきました。経験年数に関わらず、事務処理を行っていくうえでの注意事項等を再確認でき、大変参考になりました。

共同実施においては、平成24年度より教育委員会と協議を重ねていた規程の整備に関して、本年度管理規則を改正し、さらに運営規程及び新たな実施要綱が制定されました。その中で、通勤手当や扶養手当等の諸手当の認定に関してブロック長の役割を明確にしました。さらに、本年度より、東部地区で初めて東西南北のブロック長・4名にブロック内学校の兼務発令が出されました。

また、10月3日に荒木小学校を会場に行われた共同実施協議会では、北海道根室市管内小中学校事務職員研究協議会の代表5名の視察を受け、行田市の共同実施の現状について説明し、お互いの地域の情報交換・疑問点等について活発な協議を行いました。



【加須市事務研活動報告】

◎ 小学校数	22校
◎ 中学校数	8校
計	30校
◎ 会員数	32人

加須市教育研究会学校事務部会では、年3回活動を行っています。本年度も「学校組織マネジメント研修及び事例研修」というテーマで研修会を2回実施しました。

第1回は、加須市立花崎北小学校の飯島由美子氏を講師に迎え、「学校組織マネジメント研修Ⅱ」を行いました。それぞれの学校の課題をグループごとに議論し、課題解決の方策を考えていきました。グループで話し合うことにより、いろいろな視点で議論を展開することができ、たいへん有意義な時間となりました。研修時間が若干不足したので、研修時間の確保が次年度への課題です。



第2回は、前半に「税制度について・年末調整と確定申告」というテーマで税理士の櫻井成行氏を講師に迎え講義をいただきました。専門家のお話を直接拝聴できたことは、たいへん貴重なものとなりました。特に、経験年数の少ない会員にとつては、税制度の仕組みを理解することができるといえない機会になったと思われます。

後半は、市内5校の担当者による事例発表を行いました。「失業者の退職手当の受給手続」「再任用制度について」「介護休暇の事務手続」「県外出張に伴う特殊事例」「在外教育施設派遣に伴う事務処理」など詳しい資料も準備していただき発表していただきました。1校で扱う事例は限りがありますが、今回の研修で複数の事例を研修できたことは、今後の事務処理に大いに役立つものとなります。

その他では共同実施として、旅費相互審査・各校の諸表簿点検・ファイリングの巡回点検など月2回の活動を行いました。



【羽生市事務研活動報告】

◎ 小学校数	11校
◎ 中学校数	3校
計	14校
◎ 会員数	15人

羽生市では、市教研・学校事務研究部会として、年3回の活動を行っています。限られた回数での活動となる為、本市では共同実施協議会との連携を密にすることで、活動の進捗状況報告や情報交換等を適宜行っています。

今年度は、「事務処理手続きの市内共通化によるよりよい事務サービスの提供」を重点目標に掲げ活動を行っています。学校事務分野の専門的力量の向上を目標に、次の活動を実施しました。

7月の主任会では、「学校財務マニュアルの見直し」と「文書管理の見直し」を課題に、協議を行いました。学校財務マニュアルとは、ここ数年増

加傾向にあった新採用者や転入者への支援体制を強化する為、平成24年度に作成したマニュアルのことです。定期的な見直しを行うことで、より精度の高い事務処理を目指しています。また、文書管理の見直しは、文書廃棄簿の様式を見直すことで、業務効率化を目指しています。どちらの活動においても、教育委員会の監修をうける等、関係部門との連携強化といった効果も得られています。

8月の主任会では、東部教育事務所総務・給与担当職員を講師に招き、手当関係を中心とした県費事務の実務研修会を開催しました。制度的な部分等を学ぶ機会となり、私達が日頃行っている事務処理の一つ一つに根拠や考え方があることを改めて感じた有意義な研修となりました。

また、月1回発行の事務だより「陽だまり」は、12月に通算第500号を発行することが出来ました。多くの先輩事務職員方の力があってこそ500号達成であるといえます。今後も継続して発行することで、より良い「陽だまり」を目指していきます。

以上が、今年度の本市の主な活動となります。これらの活動を通して、事務職員としての資質向上と業務の共通化に取り組んでいます。



【春日部市事務研活動報告】

◎ 小学校数	24校
◎ 中学校数	13校
計	37校
◎ 会員数	40人

今年度も継続して「学校教育の効率化を高めるための事務改善」をテーマに、総務部・研究部・研修部・広報部・情報専門部・相互支援検討委員会それぞれに事業計画を立て活動を進めました。昨年度から行っている相互支援については、理事会で検討した年間計画を基に計画的に行うことができました。各部の活動については次のようになります。

「総務部」文書ファイリング関係について市内統一の文書分類一覧表や見出しラベルを印刷し配布しました。また、市教委との連絡調整や会員相互の親睦に努めました。

「研究部」財務会計システム起票事務マニュアル及び事例別対応マニュアルの見直し及び改訂を行いました。

「研修部」中期研修計画に基づき、5月に情報専門部によるイントラネット共有フォルダ「桐の小箱」の利用説明、7月に労務管理事務所の方を講師に社会保険制度についての研修、8月に現地研修会を加須の環境科学国際センターにて大気汚染についての研修及び展示館の見学、12月に教育局教育総務部福利課年金担当の方を講師に年金制度についての研修、2月に市の視聴覚センターにおいて「マニュアル作り」で有効なパソコン操作の研修と合わせて5回の研修を行いました。

「広報部」春事研要覧、月報「せせらぎ」広報紙「学校事務」教職員向け事務便り「Newかすかべ通信」の発行を行いました。また、就学援助事務手続きについて市教委学務課との意見交換を行いました。

「情報専門部」共有フォルダ「桐の小箱」管理及び春事研ホームページの作成について検討を行いました。

「相互支援検討委員会」支援内容についての見直しを行うと共に年間計画の検討を行いました。



【越谷市事務研活動報告】

◎ 小学校数	30校
◎ 中学校数	15校
計	45校
◎ 会員数	53人

越谷市学校事務研究会では、年3回の全体研究会を開催するとともに、広報誌「ミニかけはし」及び「かけはし」を、それぞれ年に一度発行しています。

全体研修会では、多方面の施設を訪問見学したり、県費、共済、市費の実務的な研修や、現在の変化にとんだ社会情勢に合わせた文化的、社会的な講演を開催したり、体験型の研修を開催したりと、様々な形での研修を行っています。

平成26年度においては次の研修を開催するとともに、今後の開催を予定しています。



◎平成26年度総会並びに第1回全体研修会

平成26年6月6日

講演

「発達障害と学校教育の課題」

講師 学び総合指導員

星野 曜氏

◎第2回全体研修会

平成26年10月30日

「ジョイントテックス東日本流通センター見学」

講師 プラス株式会社ジョイントテックスカン

パニー 関東支社 支社長 工藤和也氏

◎第3回全体研修会（予定）

平成27年2月19日

救命講習

「普通救命講習1」

講習内容は以下の通り

応急手当の重要性（講義）

主に成人に対する基本的心配蘇生法（講習）

AEDの使用法（講習）

異物除去及び止血法（講習）

講師

越谷市消防署



「久喜市事務研活動報告」

久喜市における学校事務職員の研究研修活動については、久喜市教育研究会学校事務研究部として実務研修会を年1回行っています。

久喜市では、今年度11月から職員用パソコンのメールや掲示板機能としてのポータルソフトが変更になりました。従前よりメールによる文書の收受を行ってききましたが、メールソフトや機能が変わったことで、作業に若干の支障が生じました。

この点から、ポータルソフトの使用法を研修し、より便利な使い方などの知識を持つことで、処理を円滑にし、さらに職員への情報提供も行えると考えて、導入されたポータルソフト「校務ソフト」

◎ 小学校数	23校
◎ 中学校数	11校
計	34校
◎ 会員数	35人

の作業方法についてご講義いただくこととし、スズキ教育ソフト・スズキ楽器販売株式会社ソフトウェア事業部の関口一貴氏に講師をお願いしました。

講義では、「校務ソフト」の機能の説明や具体的な操作法を実習しながら、便利な機能の紹介も含めて、丁寧にご指導いただきました。さらに、使用開始後間もなかったことから、さまざまな質問があり、回答をいただき、ソフトの改善への材料としてもらうこともできたようです。大変有意義で参考になりました。今後も様々な知識を持ち、学校運営に生かしていけるように研鑽を積んでいきたいと考えています。

研究活動のほか、市教委の「久喜市立小中学校事務ネットワーク」事業として、毎月2回（地区別・全体）、事務職員が一堂に会する機会がありますので、その際にも事務処理内容についての確認や新しい事項についての情報交換や確認を行っています。この会では、各校に共通する処理を効率化・平準化するための班別の分担作業や、市教委事務局をはじめとした市各部署からの伝達・連絡調整なども行われています。

全員が同様な情報を得ることができるよう心がけ、職能の向上のため全員で取り組んでいます。



◎ 小学校数	6校
◎ 中学校数	4校
計	10校
◎ 会員数	10人

【白岡市事務研活動報告】

白岡市では、事務主幹6名、事務主査3名、事務主任1名の10名で活動しています。

共同実施は、いまだ行っていないませんが、事務職員同士でできるだけ情報共有して、ひとりで孤立することなく、正確な事務処理ができるように、お互い心がけながら仕事をしています。

研究活動としては、市学校事務研究協議会の組織はなく、白岡市教育研究会の学校事務専門部会とし、今年度は研究協議会を2回開催しました。研究テーマは、ここ数年継続している「事務の効率化」としました。

数少ない研究協議では、各校の給与・旅費等の事例を発表しあい、それらの事例を共有することにより、事務の効率化を進めることができました。

研究活動のほかには、市教育委員会のサーバー内にある市内の学校事務職員のみアクセスできる共有スペースを利用し、各種様式や文書・事例・ワークシートなどを保管・活用して仕事に役立てています。

そのほか、グループウェアによるスケジュール管理および調整、インスタントメッセンジャーやメールなどを利用して、いつでも質問・疑問が解決できる状況をつくっています。

月1回行われる旅費相互確認では、直接、顔を合わせての情報交換や意見交換の場として、日々の職務上の諸問題を解決できる良い機会となっています。

今後も、事務職員同士のコミュニケーションを大切にし、仕事の効率化・情報の共有化を進めていこうと思っています。



◎ 小学校数	4校
◎ 中学校数	3校
計	7校
◎ 会員数	7人

【宮代町事務研活動報告】

宮代町では、小中学校事務担当者研究協議会として、年23回（内12回は旅費請求書相互確認）活動を行っています。

11月末には、宮代町立笠原小学校において、南部教育事務所管内の朝霞市小中学校事務職員会と合同研修会を行いました。校舎見学の後、朝霞市の概要、朝霞市小中学校事務職員会の組織構成、事務活動の概要等について説明がありました。

また、宮代町の事務職員研修会の実施形態、宮代町の事務職員の業務内容、共同実施、学校予算及び執行システム、専決権、予算要求の流れ、就学援助制度等々質問があり、多くの情報交換を行



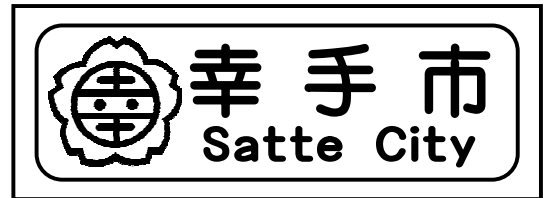
うことが出来ました。

朝霞市の学校給食費徴収事務については、町費職員が各校1名配置されているにもかかわらず、給食センターが徴収事務を行っていることを知り、本当に羨ましい限りでした。

共同実施に係る質問については、宮代町は共同実施について、人員削減・地方分権改革・地方への権限移譲を重く受け止め、グループリーダー長・事務長制も求めていることもあり、「共同実施」ではなく「相互支援」として活動を進めている現状を説明しました。朝霞市でも共同実施は導入しておらず、今後導入されるかも不明とのことでした。

多くの情報・意見交換を行う中で、支部や市町村が変わると、こんなにも小中学校事務職員の業務内容が変わってしまうものなのかと驚きの連続でした。朝霞市には市の教育研究協議会の中に事務職員部会がなく、別個の団体として活動を行っており、そのためか自由でのびのびとした活動が行われているように感じました。

他市町を参考にしながら、宮代町は小さな町なので事務職員同士助け合い、和気あいあいと学校事務を行っていききたいと思っています。



◎ 小学校数	9校
◎ 中学校数	3校
計	12校
◎ 会員数	12人

【幸手市事務研活動報告】

幸手市事務研は、女性10名、男性2名の計12名のメンバーで構成されています。人数は少ないですが、とてもまとまりが良く、熱心に活動しています。他の研究会参加にも積極的で、東部事務研や埼事研の研究会・研修会への参加は、いつも100%に近い参加率です。平成25年度より共同実施が始まり、市事務研・共同実施・市教研事務部の3つの組織となりました。

市事務研では庶務部（文書・会計・慶弔費）、研修部（研修企画・運営）、広報部（広報誌「葦」発行）の3つの部に分かれ活動しました。2月の管外視察では、関ブロ東京大会とプラスのショー

ルーム見学へ行きました。

共同実施（月2回）では、①適正化業務（中学校区グループ）で旅費相互確認・服務書類・手当書類および中学校区での課題検討を、②効率化業務（財務、情報、様式マニュアル各グループ）を行いました。財務グループでは、備品管理・共同購入・予算マニュアルの更新や市教委総務課による予算編成に関する研修を行いました。情報グループでは、事務だより（月1回）の発行・業務ソフトの更新・業務に関するデータの保存に取り組みました。様式マニュアルグループでは、県費・服務に関する様式マニュアルの見直し・就学援助費の様式について市教委学校教育課との検討・給与旅費等業務上の質問事項のとりまとめ等を行いました。

市教研事務部では、日本教材備品協会副会長を講師に招いて教材整備指針について研修しました。研修会の企画運営は市事務研研修部で行いました。実務や研究的な仕事は共同実施、講師を招いた研修や管外視察は事務研・市教研で行うなど、お互いに補完しあいながら進めています。



◎ 小学校数	8校
◎ 中学校数	5校
計	13校
◎ 会員数	14人

【蓮田市学校事務研究活動報告】

蓮田市では、学校事務共同実施協議会・市教研学校事務部会・市学校事務研究協議会の3つの組織で、それぞれの組織ごとに目的を決め、活動を行っております。

○ 共同実施協議会（月1回）

市教委の学校教育課長と共同実施担当指導主事並びに共同実施協議会長である校長に協議会に出席していただき、指導助言のもと、前半の全体協議では、全体に関わる情報共有や課題解決を図り、後半の協議では、教育支援班・事務効率化班・OJT班に分かれ、それぞれの課題解決を図る取組

をしております。今年は、市教委で実務を担当している学務担当にも協議に参加していただき、活発な意見交換をすることができました。また、広報誌「ハスネット」を毎月発行したり、教育支援班で休暇ガイド作成・備品管理方法整備等を通じ、教職員に対し情報提供・支援を行っております。

○ 市教研学校事務部会（年2回）

第1回 東部教育事務所担当による事例研修
これから増えるであろう再任用関係の事務手続きと、鉄道賃が大きく変わった旅費事務について事例研修を行いました。

第2回 学校組織マネジメント研修

昨年度実施された学校組織マネジメント研修に参加した市内の事務職員を講師に、学校組織マネジメントについて学び、共同実施を題材に話し合いを行いました。

○ 市学校事務研究協議会（年4回）

相互研修を目的に毎回2名の事務職員がそれぞれテーマを決めて講師となり、研修会を行いました。仕事の振り返りになるとともに、人前で発表するという貴重な体験ができました。

以上のように、それぞれの組織ごとに目的をもち有意義な活動を行いました。



◎ 小学校数	6校
◎ 中学校数	3校
計	9校
◎ 会員数	11人

【杉戸町学校事務研究活動報告】

杉戸町は杉戸第二小学校に第7次定数改善計画により1名加配学校事務職員が加わったことと、杉戸中学校は学校事務職員が2名配置のため、9校11名の会員で活動を行いました。

今年度の活動報告といたしましては、6月27日に杉戸町役場において第36回定期総会を行いました。

研究協議会は、第1回を11月20日に杉戸中学校で行いました。協議議題は、「年末調整及び再任用制度について」です。内容は東部教育事務所主催による年末調整事務研修会参加者の発表および各校の年末調整の事例を活用して研修を行いました。



た。再任用制度についても、年金支給開始年齢の変更により、配属される職員が増加すると見込まれ、事例を活用して研修を行いました。特に住宅取得控除については、住宅借入金報告書が必要な事例や、繰り上げ返済を行った場合による申告書の記載の仕方等、経験していない会員もあり、大変有意義な研究協議になりました。

第2回目は1月23日に、杉戸町立広島中学校で行いました。協議議題は、「退職及び出産に係る手続きについて」です。内容は、退職予定職員から、退職手当や年金、健康保険制度についての相談等が多くなっているため、職員向け資料の作成を行いました。出産に係る手続きについても、職員及び、配偶者の出産が増加しており、職員が手続きの流れが分かる資料の作成を行いました。それぞれの作業を行いながら、諸表簿の作成等を再確認して、大変参考になる研究協議になりました。

事務研を活動するにあたり、会場校や町施設におきましては、いつも快く対応していただきお礼申し上げます。最後に杉事研会員の皆様の熱心な研究活動に感謝し、杉戸町事務研の活動報告いたします。



◎	小学校数	10校
◎	中学校数	5校
	計	15校
◎	会員数	15人

【八潮市事務研活動報告】

八潮市事務研では4月の「市教研教科等主任研究協議会」において、今年度の研究テーマとして、昨年度に引き続き『事務処理の効率化』を設定しました。

毎月の旅費確認会は市内15校を5校ずつの3グループに分けて行っています。その際には旅費請求書の確認作業だけではなく、給与報告や諸手当の認定・確認事務、学校予算の執行事務、各学校の日頃の様子など、様々な事柄について、事務処理の効率化を図るための意見交換及び研究を行っています。

また旅費確認会は各グループごとだけではなく、

定期的に各学校や八潮市役所別館（市教委）を会場として、市内15校合同で開催しています。その際にも、各自の仕事の中で生じた疑問点や事例等について情報交換を行うことで、八潮市全体での共通理解の促進と、業務の効率化を図っています。

10月には『事務処理の効率化』を協議テーマとして、「八潮市教育研究会事務部会 研究協議会」を開催し、旅費確認会の際に各グループで進めている研究についての現状報告を行いました。

併せて、共同実施についての意見交換も行いました。資料を参考にして共同実施について学ぶとともに、それぞれが現時点で共同実施についてどのような考えを持っているかを率直に話し合うことで、様々な意見を理解し、共有できる良い機会となりました。

市内の事務職員が一堂に会する機会は限られていますが、その機会を有効に活用し、協議内容の充実を図るとともに、一人一人の資質の向上に努めています。



◎ 小学校数	8校
◎ 中学校数	3校
計	11校
◎ 会員数	14人

【吉川市事務研活動報告】

吉川市教育研究会学校事務研究部では、年2回研修会を開催し、今年度も「学校事務の実務向上をめざして」をテーマに学校組織マネジメントと社会保険・児童手当についての研修会を開催いたしました。

第1回研修会

平成26年10月20日（月）
14時から16時30分

会場 吉川市中央公民館

内容 社会保険及び児童手当について

講師 埼玉県教育局東部教育事務所 総務・

給与担当飯塚梨奈主事同じく埼玉県教育局東部教

育事務所総務・給与担当清水紳夫主事

社会保険については、臨時的任用者及び再任用者の社会保険等 制度と実務を具体例を交えて分かりやすく説明していただき、特に臨時的任用職員に係る社会保険の事務取り扱いについての変更についても具体的に説明していただきました。

児童手当については制度の概要から実務を演習問題を中心に説明していただきました。

第2回研修会

平成27年1月23日（金） 14時～16時30分

会場 吉川市中央公民館

内容 学校組織マネジメントについて

講師 八潮市立大瀬小学校

事務主査 勝浦準

演習形式でグループに分かれ、それぞれの学校の現状に応じたミッションを探りながら、理想の学校実現のための事業とは何か？たとえば、予算要求書作成では何を考えなければいけないか。ルーチンワークからの脱却を念頭にグループ討議をおこない理解を深めました。

共同実施については継続して毎月の旅費相互確認会等を通じて会員の理解を深めて参ります。



◎ 小学校数	3校
◎ 中学校数	2校
計	5校
◎ 会員数	6人

【松伏町事務研活動報告】

松伏町の学校事務研究協議会では、情報の共有や実務支援をすることによって、事務職員の担当業務領域の拡がりとともに、事務職員の資質・能力の向上および事務の効率化などに大きな成果がありました。しかし同時に問題点や改善すべき事項も判明してきました。

事務職員には、正確で迅速な事務処理はもとよりですが、仕事の質を高め、学校で働くすべての職員との同僚性を築き、学校経営機能を高めていくこととする意欲と資質が求められます。学校間・事務職員間の連携は、学校管理運営の適正化・効率化を図り小中学校の教育推進体制を強化するこ



とつながるものと考えています。

近年、事務職員の世代交代が急速にすすみ、退職者の増加とともに新規採用者が増えつつあります。経験の浅い職員に対する支援・育成が事務研活動の重要な業務のひとつとなつてきています。

また、今年度は、12月5日に越谷市立新方小学校にて研究協議会を開催し、町内だけでなく、より多くの視点から学校における総ての事務を点検し、学校の教育力をより高めるための事務改善の検討を行いました。このことは、今後の事務研活動をすすめる上でも大変意義深く、今後とも継続していく予定です。



◎	小学校数	19校
◎	中学校数	8校
	計	27校
◎	会員数	28人

【三郷市事務研活動報告】

毎月1回（8月を除く）午後半日の日程で、主に三郷市保健センター分室で事務研を開催しています。流れとしては、諸連絡・全体協議・三班に分かれてのテーマ別研究です。

今年度の内容は、諸連絡では、給与・共済等の文書確認・情報交換等を行いました。全体協議では、就学援助事務についての確認（市教委学務課担当者出席）・財務事務処理について（市教委総務課担当者出席）・通勤経路の相互確認・文科省研修「学校組織マネジメント」に参加した人の伝達研修・管理担当訪問事前、事後の確認について・履歴書について・共同実施について等を行いました。

テーマ別研究では、「初任者等支援計画」「ライフプラン」「服務に関する事務処理」をテーマに掲げ各グループに分かれて研究を行いました。

また、今年度は8月に管外研修として埼玉県庁を訪れ、危機管理防災センター、県警通信司令室、交通管制センター見学を行いました。普段では交流のない職種の方々の仕事内容を見学でき、見聞を広められたと思います。

11月には、共済組合年金課年金担当の方を講師として招き「年金一元化に関する研修」を行いました。年金一元化に向けての事前研修としてとても参考になりました。12月には、今年度他市へ異動した学校事務職員を講師として招き「他市への異動事務等について」の研修を行いました。他市との交流がなかなか出来ない現状なのでとても興味深いものとなりました。

共同実施については現在実施しておりませんが、実施している他市の事例等を参考にして、研修研究を行いました。そして昨年度・今年度と検討会を持ち、実施に向けて進めているところです。

埼玉研・東部事務研等に役員・部員として積極的に参加、活躍している学校事務職員が多い三郷市小中学校事務職員会です。



【初任者の一年】



春日部市立小渕小学校

清水 健吾

『学校事務職員になって』

私が学校事務職員になって最初に感じたことは学校事務職員は様々な仕事をしなければならぬということです。物品購入や学校徴収金などはもちろんのこと、先生方から頼まれる雑務的なこと、また児童との関わりなど様々でした。最初の頃は毎日が目まぐるしく過ぎていくように感じました。やっと最近になって落ち着いて仕事ができるようになってきたと感じています。

しかし学校事務職員となって良かったなと感じたことがいくつかあります。まず良かったと思うことは児童と触れあえるということです。最初はどうか接すればいいか悩みましたが、最近は昼休みに一緒にサッカーをしたり、とても楽しく仲良く過ごしています。しかしその反面、いたずらをし

たりふざけている児童に注意する場面がたまにあるのですが、どうすれば上手く伝わるのか勉強しなければと思います。また他に良かったと思うことは給食が凄く美味しいことです。小学生や中学生の時に食べて感じていたイメージより今食べている給食がかなり美味しく、毎日の献立が楽しみです。また数年ぶりに自宅の冷蔵庫に献立表を貼るようになりました。

自分が学生の時にはまったく縁のなかった事務作業に戸惑うことが最初は多く、苦痛に思うこともありましたが、しかしそのたびに周りの先生方が助け舟を出してくれ、今後どのようにすればいいか指導していただけるなど、自分はとても暖かく良い環境で仕事をしているのだと思う毎日です。しかしこれから何年も仕事をしていくうちに、教えてもらう立場から少しずつ教える立場になっていかなければなりません。

今は初任者である立場を活用し、学べることはどんどん学んでいき、積極的に自分から物事を進め実行していき、それを通じて様々なことを学び勉強していきたいと思います。そしてこれからも学校に携わった仕事をしていきたいと思っています。



久喜市立三箇小学校

澤田 典幸

『光陰矢の如し』

4月からこれまでを振り返ってみると、これほど月日が経つのを早く感じたことはありませんでした。気が付けばもう3学期で、本当にあつという間だったと感じます。

4月当初は、電話が鳴るたびに緊張し、仕事をしようにも何から取り掛かればよいのかもわかりませんでした。毎日のように前任者の方や近隣校の先輩事務職員の方々に電話をして、仕事の進め方を教えていただき、期限に間に合うようにすることに必死でした。そうしている間にも、徐々に仕事が増え重なり、自分一人でこの仕事をしなければならぬことに責任と不安を感じましたが、前任者の方や先輩事務職員の方々、先生方が助けてくださり、どうにか切り抜けることができました。周りの方々にお世話になるばかりで、ただただ感謝の気持ちでいっぱいです。

4月の頃に比べると、少しずつですが知識が増



えてきて、見通しを立てて仕事ができるようになったと思います。また、学校という職場や、自分が「先生」と呼ばれることにも慣れてきて、児童の名前も徐々に覚えてきました。最近は朝のマラソンに参加しています。

実際に学校事務職員として働いてみて、私の想像以上に事務職員の仕事の幅が広いことに驚きました。最初は、次々にやってくる仕事を一人でできるか不安になりましたが、今はどうすれば効率よくできるかを試行錯誤しながら、自分なりのやり方を見つけようと努力しています。

先生方が授業だけでなく、たくさんの事務処理に追われる姿を見ていながらも、これまで自分の仕事で手一杯で、あまり力になれず申し訳なく思っています。まだまだ知識、経験ともに浅く頼りないですが、信頼される事務職員になれるよう、まずは基本的な仕事をより素早く、正確にこなせるよう、一日一日を大切に、日々の業務に全力で取り組んでいきます。

またそういった中で、先生と異なる立場の事務職員にしかできないことを模索し、積極的に実践していきたいと思っています。



吉川市立北谷小学校

関 翔太

『一歩をヨウ』

「3月に高校を卒業したばかりで、未熟者ですが精一杯頑張ります」と職員顔合わせで挨拶をし、学校事務職員としての一歩を踏み出してもうすぐ1年が過ぎようとしています。昨年3月まで学生服を着ていた私が仕事を続けてこられたのは、教育委員会・教育事務所、校長先生をはじめ職場の先生方、先輩事務職員の方々など、多くの方に助けて頂いたおかげです。とても感謝しています。

4月に学校事務職員として働きだしてから、毎日が新しいことの連続で、出勤してから退勤するまでが長く感じました。日々の事務処理を始めとし、物品の購入、給食費の納入など覚えるべきことがどつと押し寄せてきました。慌ただしく過ごしていたためか、4月をどう過ごしていたかあまり覚えていません。4月を振り返った際、これはまずいと思い、その日行った業務を手帳に書くことにしました。仕事終わりに行うことで、次の日

や1週間の予定を立てやすくなり、落ち着いて仕事に取り組むことができるようになりました。また、2年目を迎えるときの参考として使えればと思います。

社会人として新しい経験をする一方、学校で仕事をしていく中で懐かしいと感じることもあります。通学班での登校や児童のランドセル姿、運動会や水泳の授業、そして中学校卒業以来久しぶりに食べる給食。1ヶ月の昼食代が安くすむのもとてもありがたいです。

勤め始めて、椅子に座っている時間が多く、高校生だった時と比べ動かなくなったため、毎晩約30分のランニングをするようになりました。最初はただ走っているだけだったのですが、体力がついてからはまわりの風景や人の流れを見ることができるようになりました。仕事も同じように、何度も行ふことで、気持ちに余裕を持ち、広い視野で物事を見極め、より確実に効率よく仕事を行っていければと考えています。

2年目の第一歩を力強く踏み出すためにも、日々の業務を確実にに行い、立派な学校事務職員になれるよう精一杯努力していきたいです。



加須市立加須南小学校

長谷川 智哉

『一年間を振り返って』

私は、今年度4月から学校事務職員として加須南小学校に配属され働いてきました。初めは自分が何をすべきか、何をしているのかも分からない状況でした。そのため、年度当初は報告ミス、報告漏れが多発してしまい、事務所の方や委員会の方、先生方など、多くの方々に大変なご迷惑をおかけしてしまいました。

このように何もできず仕事にならない状況でしたが、前任者の方が退勤後や休日に本校に来て仕事を教えてくださったたり、勤務時間中でも電話で私の質問に答えてくださったたりしてくれたおかげで、何とか乗り切ることができました。また、まわりの先生方も学校のことを教えてくださったたり私の失敗も大目に見てくださったおかげで、学校にも慣れることができました。

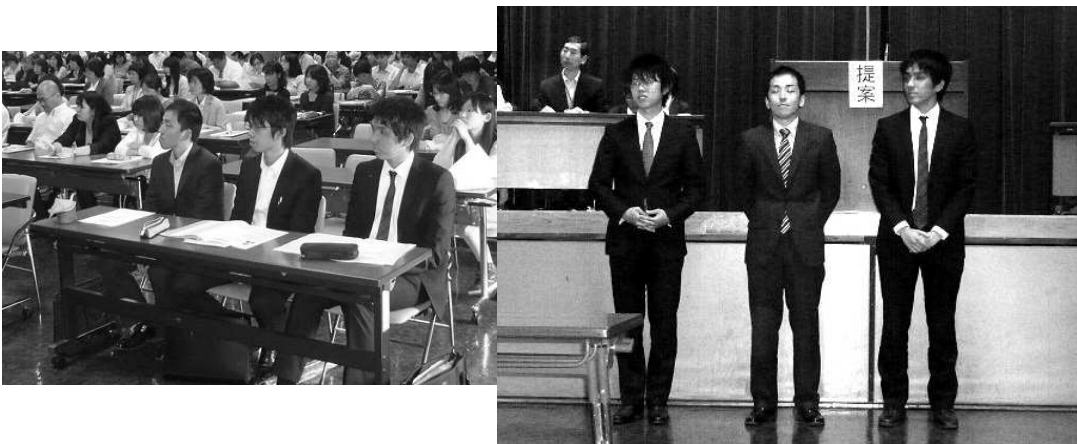
さらに、加須市では共同実施が行われており、それも私にとっては、1年間何とか乗り切れた大

きな要因だと思っています。加須市の共同実施は月に2回行われており、それぞれ旅費の相互審査、帳簿の相互チェックが行われています。また、各種手当の相互チェックも行われています。この共同実施は、自分のミスを発見することができる、自分の知らなかった知識を得ることができる、自分が疑問に思ったことを聞くことができるといった、初任者の私にとってこれ以上ない機会でした。このように、初任者として配属され何も分からない状態の私を支えてくださるたくさんの方々や機会に恵まれたおかげで、徐々に毎月の仕事の流れややり方が分かってきて、当初より効率よく仕事ができるようになってきました。

しかし、仕事に慣れたことでチェックが甘くなってしまう、報告ミスや報告漏れがいくつか発生してしまったこともあります。また、初めて経験するような事例もたくさん出てきます。今後は、当初の気持ちを忘れず仕事に取り組むことでミスや報告漏れを確実になくし、新しい事例にあたって冷静に対処し確実に知識をつけ、経験を積んでいきたいと思っています。そして、今度は自分が新しく学校事務職員となった方に、先輩方が自分にしてくれたのと同じように関わっていききたいと思

ます。

さらには、規模の小さい学校に勤務しているので、事務の仕事以外のことも積極的に学校に貢献できるようにしたいと思います。



編集後記

最近の子は、何でも悪いことは妖怪のせいにしてしまうという話を聞いたことがあります。アニメ、映画、ゲームなどは大ヒット！お店に行けば、キャラクターのグッズが立ち並び、人気の品は抽選販売や、行列に並ばなければ、あるいはオークションで高いお金を出さなければ手に入らないという、妖怪をウオッチするあれの影響ですね。そんなに人気があるのなら一度観てみようかとテレビアニメを観てみました：

あれ、これはあのアニメの名言では？訴えられかねないのでは？という際どいパロディが散りばめられていて、大人もついニヤリとしてしまうことがあります。出てくる妖怪も、ダジャレでつけたような、かわいらしいのばかりで、おどろおどろしさはありません。

ちなみに、私にも「ひとまか仙人」と「わすれん帽」が憑いているのかもしれない。この「東部の学校事務 第16号」を発行するにあたり、たくさんの方にご迷惑をおかけしました。

ご多用にもかかわらず、原稿をお寄せくださりました方々にこの場をお借りして、厚くお礼を申し上げます。

誠にありがとうございました。

今後も、東部事務研並びに広報部へのご支援を

何卒、よろしくお願い申し上げます。

発 行 埼玉県東部公立小中学校学校事務研究協議会

編 集 広 報 部

《発行責任者》 会 長 櫻 井 恵美子

《広 報 部》 担当 副会長 飯 島 由美子

担当副理事長 本 橋 憲 治

部 長 渋谷 朋 広

副 部 長 浦 部 一 男 ・ 野 口 明日香

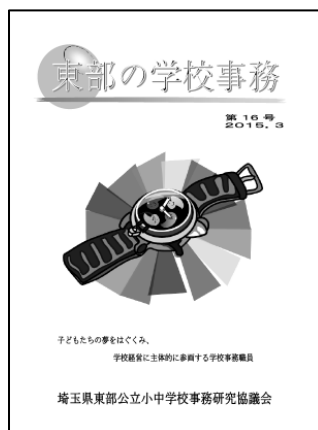
部 員 結 城 杏 美 ・ 杉 澤 朋 子

風 間 和 久 ・ 佐 藤 章 人

稲 毛 亜矢子 ・ 忍 田 初 恵

澁 谷 恵 ・ 菊 池 政 彦

林 宏 弥 ・ 市 川 唯



平成27年 3月 1日発行



東部事務研マスコット

「とぶ★たまちゃん」